

去勢牛肥育技術の改善

濃厚飼料不断給餌開始月令(体重)について

菊地 惇・永淵大洋・平瀬一博

(長崎県畜産試験場)

若令肥育は群飼管理が可能な好条件を備えているが、和牛では肉質特に脂肪交雑が重視されるので、これを確実にする手段として仕上体重と月令を高める肥育期間延長が一般化している。この場合よく指摘される問題として後期の喰いどまり、増体停滞、尿結石症等があげられるが、これらを防止するための改善策として、肥育前期の飼養法と不断給餌開始月令(体重)について検討したので、その結果を報告する。

1. 試験方法

(1) 試験期間 S. 48. 6. 27～S. 51. 9. 8

(2) 供試牛

県内産の黒毛和種去勢雄子牛で月令9～10ヵ月、発育体型、資質は中程度である。

(3) 試験区分と飼養管理

試験区分と飼料給与方法は表1に示す通りである。各区共、半開放牛舎にパドック(面積91.5m²)付で群飼育である。水、塩は自由に飲水、秣食でき、ホルモン剤は使用しなかった。

2. 結果および考察

(1) 増体成績

増体成績は表2に示す通りである。対照区は肥育期が進むにしたがって、増体は低下し、特に、肥育後半の増

体鈍化が目立った。それに対して、試験区は濃厚飼料を制限した肥育Ⅰ期において、増体量は劣ったものの、肥育後半における増体量は優れており、対照区と、試験Ⅱ区、Ⅲ区間では有意差が認められた。

(2) 飼料採食量

濃厚飼料の採食日量と摂取率は各区共、不断給餌開始時期に多くなるが、肥育期が進むにしたがって減少する傾向が認められた。しかし肥育後半は試験区が優れていた。濃厚飼料採食総量は対照区と肥育期間がほとんど同じ試験Ⅱ区、Ⅲ区とでほぼ同様か僅かに少ないので、前述の増体量からみて肥育前半の粗飼料利用は増体と濃厚飼料節減に効果的と思われる。

(3) 屠体成績

枝肉歩留、枝肉規格、皮下脂肪の厚さ、脂肪交雑 2.5～3.0と各区共に大差なく、格付は上クラス以上となり終了月令25ヵ月令前後で肥育程度からみて、この程度の肉質は当然と考えられる。

以上のことから、黒毛和種去勢牛の長期若令肥育技術として、13～14ヵ月令、350kg前後まで濃厚飼料をセーブした前期粗飼料多給方式が仕上体重が大きく、増体量もよく、特に肥育後半の増体停滞、食どまり防止ができ濃厚飼料の節減となり、有利な飼養法と考えられる。今

第1表 飼 料 給 与

項目 区分	供試頭数	不断給餌 月 令	濃 度 飼 料			生 草			乾 草
			肥育Ⅰ期	肥育Ⅱ期	Ⅲ・Ⅳ期	肥育Ⅰ期	肥育Ⅱ期	Ⅲ・Ⅳ期	
対照区	4 頭	11 月令	不 断 給 餌			2.0 ～ 3.0 kg			自由採食
試験Ⅰ区	6	14	1.2%体重	不 断 給 餌		3.0～4.0	2.0 ～ 3.0		〃
試験Ⅱ区	6	14	1.2%	不 断 給 餌		5.0～7.0	2.0 ～ 3.0		〃
試験Ⅲ区	6	18	1.2%	1.5 %	不断給餌	5.0～8.0	4.0～6.0	2.0～3.0	〃

第2表 増 体 成 績 (単位: kg)

項目 区分	開始時 体 重	肥 育 Ⅰ 期		肥 育 Ⅱ 期		肥 育 Ⅲ 期		肥 育 Ⅳ 期		全 期		
		終体重	D・G	終体重	D・G	終体重	D・G	終体重	D・G	肥育日数	増体量	D・G
対 照 区	*306.5	392.0	0.763	473.5	0.582	525.0	0.460	552.5	0.357	441	246.0	0.558
試 験 Ⅰ 区	261.1	*363.6	0.608	464.0	0.896	517.3	0.381	580.5	0.602	525	319.4	0.608
試 験 Ⅱ 区	269.8	*349.0	0.707	460.7	0.796	521.7	0.545	571.0	0.525	458	301.2	0.658
試 験 Ⅲ 区	282.0	355.5	0.656	*463.0	0.768	537.5	0.665	584.5	0.511	456	302.5	0.663

注) * 不断給餌開始体重

第3表 飼料採食量

項目 区分	給与飼料	肥育Ⅰ期		肥育Ⅱ期		肥育Ⅲ期		肥育Ⅳ期		全期		
		採食量	摂取率 (ADM)	採食量	摂取率 (ADM)	採食量	摂取率 (ADM)	採食量	摂取率 (ADM)	採食量	摂取率 (ADM)	総量
対照区	濃飼	6.5	1.9	6.5	1.5	6.2	1.2	5.7	1.0	6.3	1.4	2,785
	乾草	1.1	} 0.4	1.1	} 0.3	1.4	} 0.4	1.5	} 0.3	1.2	} 0.3	545
	生草	2.3		1.7		1.9		1.2		1.8		800
試験Ⅰ区	濃飼	3.9	1.2	7.9	1.9	6.6	1.3	7.1	1.3	6.1	1.5	3,216
	乾草	2.8	} 1.0	1.5	} 0.4	1.2	} 0.3	1.4	} 0.4	1.8	} 0.5	953
	生草	3.6		2.5		1.9		1.8		2.6		1,340
試験Ⅱ区	濃飼	3.6	1.2	7.1	1.7	6.4	1.3	6.2	1.1	5.9	1.3	2,696
	乾草	2.1	} 1.0	0.7	} 0.4	0.9	} 0.3	0.8	} 0.3	1.1	} 0.5	509
	生草	5.9		3.1		2.2		3.6		3.7		1,678
試験Ⅲ区	濃飼	3.5	1.1	6.5	1.5	7.2	1.4	6.7	1.2	6.0	1.3	2,728
	乾草	1.6	} 1.2	1.6	} 0.7	1.2	} 0.3	1.4	} 0.3	1.5	} 0.6	665
	生草	7.6		4.2		2.4		2.4		4.3		1,927

後は粗飼料多給型と濃厚飼多給型肥育による肥育前期
(体重400~450kg) までの増体、体格等の差が、その後

の肥育によって枝肉構成割合にどのように影響するかを
検討する必要がある。